

自由民主党国土強靱化総合調査会レポート NO.5

自由民主党国土強靱化総合調査会（会長：二階 俊博衆議院議員）の第五回会合が下記の通り開催されましたのでご報告致します。

1. 日 時 平成 23 年 11 月 29 日（火）8:00～9:00
2. 場 所 党本部 707 号室
3. 参加者 二階俊博会長、武部勤会長代理、林幹雄筆頭副会長、中谷元副会長、宮腰光寛副会長、佐藤信秋副会長、鶴保庸介副会長、脇雅史副会長、福井照事務総長、牧野たかお常任幹事、望月義夫常任幹事、吉野正芳常任幹事、今津寛常任幹事、赤澤亮正幹事、橘慶一郎幹事、泉信也参与、あべ俊子、伊藤忠彦、遠藤利明、河村建夫、木村太郎、北村誠吾、塩谷立、新藤義孝、中村喜四郎、磯崎仁彦、片山さつき、中村博彦、若林健太（順不同）

代理参加 古賀誠顧問、町村信孝顧問、山東昭子顧問、金田勝年副会長、三ツ矢憲生副会長、西村康稔常任幹事、山田俊男常任幹事、谷公一幹事、井上信治、今村雅弘、江渡聡徳、加藤勝信、梶山弘志、塩崎恭久、永岡桂子、棚橋泰文、古川禎久、古屋圭司、松本純、村田吉隆、森山裕、岩井茂樹、岩城光英、金子原二郎、佐藤ゆかり、末松信介、関口昌一、谷川秀善、塚田一郎、野上浩太郎、古川俊治、松村祥史、松村龍二、山崎正昭（順不同）

4. 議 題 「東アジアのネットワークの中での日本の強靱化について」
（講師）東アジア・アセアン経済研究センター事務総長 西村 英俊 氏

5. 講演要旨

- ① 2011 年 11 月 17 日の第 19 回 ASEAN サミットの議長声明において首脳らは、「ジャカルタフレームワーク」をはじめとする ERIA (Economic Research Institute for ASEAN and East Asia) の諸活動に高い評価を与えた。2015 年以降の ASEAN に向けた創造的なアイデアを提起し、2015 年までの ASEAN 経済共同体の設立とそれ以降に向けた議論に付加価値を与えるとした。また、ERIA が、ASEAN 及び東アジアの地域統合の加速化に向けて取り組みを強化していることを称賛 (Commend) した。ERIA は、次回サミット開催国であるカンボジアとの協力を始めている。さらに、ERIA は ASEAN サミットの議長声明において、調査研究・政策提言を通じた「エネルギー協力強化」に関する貢献が賞賛され、2015 年までの経済共同体に向けて ASEAN 経済を共通の基

準で一致して進めるためのチェックを行なう分析的なスキームである「AEC ブループリントの中間見直し及び AEC スコアカードモニタリングシステムの見直し」、日本型経営や PPP の促進による「ASEAN の接続性」、中小企業の生産ネットワークへの参加による持続性のある中小企業の域内における促進に向けた「ASEAN 中小企業政策インデックスの開発」等においても高く評価された。

- ② 2015 年の東アジア共同体を前提として大きな方向性を出すためにインドネシア政府・ハーバード大学・ERIA がまとめた「ジャカルタフレームワーク」には、重要な 4 つの経路 (Pathways) が示された。「i 競争力のあるダイナミックな経路」とは、ASEAN では巨大な中間層が出現、最極貧層が減少している。これは日本の産業界が築いてきた生産ネットワークが寄与している。「ii 包括的 (Inclusive) な経路」の包括 (Inclusive) には 3 つあり、“地域的发展のばらばら”、“産業的发展のばらばら”、“社会的发展のばらばら”を乗り越えていくこと。「iii 持続可能性のある経路」の持続可能性には“レジリエンシー (Resiliency)”と“グリーンな経済成長 (Development)”の 2 つの条件がある。“レジリエンシー”とは、少々へこんでも直ぐに立ち直る“強靱化”のことである。食料、エネルギーの安全保障や外部からのショックに強くなるための方策が重要。“グリーンな経済成長”とは、ASEAN は『日本に学べ』と初期の段階から日本が行なってきた省エネルギーなどの技術開発を導入することなどが鍵となる。「iv ASEAN 中心性を基礎としたパートナーとのダイナミックな均衡」では、ASEAN が中心となり、この地域の声をまとめ、あらゆる世界のフォーラムで提唱していくリーダーシップをとることである。
- ③ これからこの地域で進むのは、官民パートナーシップ (PPP) である。ODA だけでなく、民間方式によるインフラ開発の手法である。民間方式では、お金だけでなく、会社を運営していく人、マネジメントが重要となる。ERIA では、アメリカ型のケーススタディではなく、OJT を更に発展させた日本的経営管理及び手法の思想 (PBL、プロジェクトラーニング手法) を、このアジア地域全体の標準にすべきと考えている。これを推進する大学のネットワーク (APEN、アジア・プロフェッショナル・エデュケーション・ネットワーク) を形成し、既に 8 カ国が参加している。
- ④ アジア総合開発をする場合に、地政学上重要なミャンマーにミッシングリングがある。これは、インドシナ最大の日本の産業集積地であるバンコク、インドの最大の産業集積地のチェンナイを日本に直接つなげることが震災復興にもつながる。ASEAN・東アジアには巨大なポテンシャルが存在し、2015 年に ASEAN 経済共同体ができれば現在 200 兆円の GDP が 10 年で倍になる。日本の産業界・政府が数十年に亘って築いてきた生産ネットワークが、ASEAN・東アジアのポテンシャルを高め、日本の強靱性も高める。東アジアのネットワークの中で始められた商売の半数は 15 年間続く。しかし、ネットワークのない欧米との取引は、3 年程度で消えてしまうもの

が多く、15年続いているのは4分の1もない。このようにこの地域の域内の取引は他の地域と比べて強靱化をそなえている。この生産ネットワークを日本国内で強化するとともに、アジアで形成して発展・拡大することが日本の産業界の安定した成長を支える。

- ⑤ アジアにはまだまだ拡大の余地がある。貧弱なインフラ開発及びメコン・インド経済回廊を整備し、ホーチミン市と日本の沖縄、仙台をつなげば、長期的には震災の被害を乗り越えてさらに4%の経済成長が可能。連結性の強化は、アジアの発展、日本の震災からの復興の助けとなる。鍵となるミャンマーに大規模な投資を呼び込むためには、グリーンかつ包括的（Inclusive）である国家ビジョンが必要である。今回の第3回日メコン首脳会議においても、ERIAがこのビジョン作成のためのフィージビリティスタディをすることが合意された。また、ERIAでは、東大の澤田先生をプロジェクトリーダーとして、より災害に強い東アジアを形成するための国際研究プロジェクトを開始することとしている。

6. 主な意見

- ・今回の日本のTPPのアプローチをERIAもしくはASEANはどのように見ているのか。また、CEPEAとEAFTAは合体すると日本の役人は言っているが、+6と+3や日中のせめぎ合いがあると思う。+3に向かうのか、+6に収斂されるのか、感じていることがあれば教えてほしい。また、ERIAへの日本の貢献は初期の2009年度は約26億円だったところ現状11億円と半分以下にカットされたが、予算が削減されたことが各国にはどのように映っているか。そして、今後のERIAにインドを入れるためにどうするかということを含め、ERIAの中で日本がイニシアティブをこれからもとるためにはどのような取り組みが必要か。
- ・アジアが豊かにならないと、日本も豊かにならない。新聞報道によると、ミャンマーが中国からのダムの支援を断ったとあった。中国は道路やパイプラインなど人が入り、これまでも支援してきたにも関わらず、なぜミャンマー政府は急に断ったのか、その理由はどのように考えているか。
- ・モンゴルは資源大国であるが、ロシアと中国の間で苦勞している。極東ロシアを含む北東アジアをどのように考えているか。

7. 西村英俊 講師の主な著書・講演等

- ・「東アジア市場統合への道-FTAへの課題と挑戦-」[共著]（勁草書房）
- ・「アジアの奇跡、再び-世界最大のビジネス空間の創造へ-」[論文]
2011年（2011年ボアオフォーラムにて発表）
- ・2009年7月（ミャンマー） 第3回東アジア・エネルギー大臣会合

- : ERIA の活動報告
- ・2009年8月(ブルネイ) ERIA 主催 BIMP-EAGA 大臣朝食会 : ERIA の活動報告
 - ・2009年8月(タイ) 東アジア経済閣僚作業昼食会 : アジア総合開発計画のインセプション・レポートを報告
 - ・2009年10月(マレーシア) ERIA 主催 IMT-GT 大臣朝食会 : ERIA の活動報告
 - ・2009年12月(日本) 国際シンポジウム「世界経済危機と東アジア経済の再構築」 : とりまとめ報告
 - ・2009年12月(ベトナム) 第15回 ASEAN 交通大臣会合 : ASEAN 戦略的交通計画 (ASTP) の報告
 - ・2010年2月(マレーシア) 第16回 ASEAN 経済大臣 (AEM) リトリート会合 : AEC (ASEAN 経済共同体) スコアカードのインプリメンテーション・ストラテジーレポートを報告
 - ・2010年3月(タイ) シンポジウム「新興中間所得層とソーシャルセーフティネットワーク」 : とりまとめ報告
 - ・2010年7月(日本) ERIA リージョナルネットワークフォーラム : とりまとめ報告
 - ・2010年7月(ベトナム) 第4回 EAS エネルギー大臣会合 : ERIA のエネルギー分野の取組みを報告
 - ・2010年8月(タイ) IMT-GT 大臣朝食会 : IMT-GT 地域において可能な開発戦略・アジア総合開発計画を報告
 - ・2010年8月(ベトナム) 第4回 ASEAN 経済共同体 (AEC) 評議会会議 : AEC スコアカードの進捗状況を報告
 - ・2010年8月(ベトナム) ASEAN+6 経済大臣ワーキングランチ : AEC スコアカード、ASEAN コネクティビティーマスタープラン、アジア総合開発計画を含んだ、ERIA の最新の活動状況報告
 - ・2010年10月(ベトナム) ハーバード大学共催シンポジウム「発展する ASEAN 社会と持続可能な社会保障制度の確立」 : とりまとめ
 - ・2010年11月(ブルネイ) 第16回 ASEAN 交通大臣会合 : ASEAN 戦略的交通計画 (ASTP) の報告
 - ・2011年2月(インドネシア) インドネシア PPP 鉄道セミナー : とりまとめ報告
 - ・2011年4月(中国) ボアオ・アジアフォーラム会議 : パネリスト 論文提出
 - ・2011年5月(インドネシア) 世銀レポート「世界開発報告 2011」記念式典 : パネリスト
 - ・2011年5月(インドネシア) ASEAN 経済大臣準備会合 : ERIA の活動について報告
 - ・2011年8月(インドネシア) 第43回 ASEAN 経済大臣準備会合 : AEC スコアカードフェーズ2 及び AEC 中間レビューについて報告
 - ・2011年8月(インドネシア) EAS 経済大臣非公式協議 : ERIA の研究活動

について報告

- ・2011年8月（ラオス）第1回 EAS エネルギー効率に関する会議
：とりまとめ報告
- ・2011年9月（ブルネイ）第5回 EAS エネルギー大臣会合
：ERIA のエネルギー分野の取組みを報告
- ・2011年10月（インド）インド政府・ADB 共催 賢人会議：パネリスト
- ・2011年10月（日本）第10回パッケージ型インフラ海外展開関係大臣会合
：講師
- ・2011年10月（インドネシア）インドネシア政府-ERIA-米ハーバード大主催
シンポジウム「ASEAN2015、その後の前進に向けて」：とりまとめ報告
- ・2011年11月（インドネシア）ASEAN 連結性シンポジウム：スピーチ
- ・2011年11月16日（インドネシア）ASEAN 経済大臣準備会合
：AEC スコアカードフェーズ2、AEC インプリメンテーションの中間報告

等

8. 今後の予定

○日 時 12月 14日（水） 午前9時30分～
○場 所 党本部 707号室
○議 題 東日本大震災の教訓
講師：月尾 嘉男 東京大学名誉教授

○日 時 12月16日（金） 午前9時30分～
○場 所 党本部 707号室
○議 題 国家の強靱化とは
講師：岡崎 久彦 NPO 法人岡崎研究所理事長

※ご意見送付先

【事務局】自由民主党政務調査会

国土強靱化総合調査会 担当

TEL：03-3581-6211

（内線5425）

FAX：03-3581-6700

E-MAIL：kokudo-kyojinka@mail.jimin.jp

以上